

今日は5組担任の先生より、生徒のみなさんへ「敷中エール」をお届けします

## 1年5組担任 柵 敦

みなさん、こんにちは。今年度は、1年5組の担任、そして1年生全クラスの社会科を担当させていただきます。よろしくお祈りします。これまでも多くの先生方が、みなさんと一緒に過ごせない日々の寂しさを書いていましたが、私も一緒です。ただ、ここで思いを述べると切りがなくなってしまうので、今回は社会科の教員っぽいことを書きたいと思います。

みなさんは、《天然痘・ペスト・コレラ…》などの言葉を聞いたことがありますか？実は、これら全部が、かつて世界中で流行し、多くの人の命をうばった感染症なのです。特に、黒死病とも呼ばれたペストは、14世紀(1301年~1400年)のヨーロッパで人口の3分の1の人の命を奪いました。また、天然痘は、大仏建立で有名な聖武天皇の時代(奈良時代)に、大流行しました。当時は、なぜ人が亡くなっていくのか分からず、天然痘を悪魔の仕業として恐れ、同時に政治も乱れ、地震も起き、世の中は不安でいっぱいになっていました。そうした世の中を安定させるために作られたのが大仏なのです。感染症への対策が分からなかった当時は、神や仏に祈るよりほかなかったのですね。

では、なぜ今は《天然痘・ペスト・コレラ…》などの感染症の名前を聞かなくなったのでしょうか？理由は簡単です。どの感染症も医療の進歩のおかげで、治る病気になったからです。特に天然痘は、ワクチンが開発され、世界からなくなりました。だから、現代に生きる私たちは、神や仏に祈らなくてもそうした感染症に怯えることなく生活していけるのです。でも忘れてはならないのは、今私たちがこうして生きていけるのは、過去にたくさんの人々の犠牲があり、そして、それを何とかしようと必死になった人たちが開発してくれた薬や医術あるからこそなんですよね。

今私たちは、新型コロナウイルス感染症という、新たな感染症に苦しめられています。当たり前のようにあった日常は奪われ、たくさんの人が亡くなっています。とても悲しく辛いことです。ただ、こうしている今も未知の感染症と闘ってくれている医療現場の方々がいる、薬の開発を必死でしてくれている方々がいる。それは、過去の感染症のときと何ら変わりはありません。命がけで、命を守ってくれています。一方、聖武天皇の時代と大きく違うのは、私たちも祈るだけでなく、対策の仕方を知っているということです。三密を防ぎ、手洗いうがいをして、外出を自粛する。そうすることで少しでも感染を予防できると私たちは知っています。

この先、もしかしたら歴史の教科書には『コロナ』が太字で載るかもしれません。それに対して、私一人なんか、教科書にも載らないちっぽけな存在です。それでも、感染症と闘ってきた過去の人々やこの先を生きる未来の人々に、「自分は自分のできる精一杯のことでコロナと闘った」と胸を張れるように、この自粛期間をがんばって乗り越えたいと思っています。

最後に、私は「顔晴る(がんばる)」という言葉が好きです。本来は、「頑張る」と書きます。でも、頑なに張り続けるといつかは苦しくなってしまう。だから、当て字で、「顔が晴れやかになる=笑顔になる」という意味で、「顔晴る」を使います。今は、とても大変で苦しい時です。だからこそ、みんなで一緒に顔晴りましょう。

